
これってアリですか？

ぽち。

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

これってアリですか？

【Nコード】

N5586A

【作者名】

ぼち。

【あらすじ】

一人の少年の日常を通して生命の大切さを描いた、ハートフルぐだぐだ小話。

若気の至り、ってやつでしょうか。

俺は昔とんでもないクソガキでした。ありとあらゆる悪戯の限りを尽した幼少時代、今の自分が過去の自分に出会ったら絶対ゲンコツの一つでもくれてやったことでしょう。

人の迷惑顧みず、全力でヤンチャでした。

総じて幼少時代というのは小さな生き物に大して残酷なもので。もちろん俺も例外ではありません。だってクソガキでしたから。ほら、皆も多少は経験あるでしょ？虫の羽むしってみたい（あ、シヤレじゃないから！）、ナメクジに塩かけてみたい。

あの日の俺は、超オーソドックスなパターン　蟻の巣穴に水を流し込むという悪戯をしました。

後に大変なことになるとも知らずに……………

まだまだ気温が不安定な5月。

GW明けの気だるさを抱えながら、学校帰りの俺は公園のベンチで一休みしていた。

ぬるい缶コーヒーを手で転がし、ため息をつく。

予備校行くのもめんどくせーな、サボっちゃおうかな　なんて。

「よお、まさみっちゃん！辛気くせえ顔してどーしたんだよ」

ふと横から威勢の良い声が響く。

「えーと、この声は……　セイジさん？」

「おう！いい加減顔覚えてくれよぉー！って無理か、ハハハ」

うん、無理ですゴメンなさい。

俺にはセイジさんの顔を覚えるどころか、姿を確認するのも一苦労なのだから。

無事姿を確認出来ても、今度は個人認識が出来ない。

だって

セイジさんは

蟻、だから。

アリと話をすることが出来るようになったのは幼稚園に上がる前、
ようするに悪ガキ全開だった頃の事だった。

原因は前述した“蟻の巣穴に水を流し込むという悪戯”ってやつだ
ったりする。

あの日俺が水攻めにした巣穴は、何やら徳の高いアリさんたちの住
処……人でいうところの寺に値するようなもんだったのだろうか？
……だったらしく、この心ない殺戮に対して報復を企てた。

呪いという名の報復を。

『生命の尊さを知らぬ愚かな子童よ、我等はそなたに呪いをかけよ
う。

我等の声を聞き、その愚かな行動を悔い改めよ。

罪を償うその日まで、我等の声に耳を傾け生命の尊さを学べ』

画して一人の少年は、その日を境に生き物を無下にする遊びをしな
くなった。

だって会話が出来る相手に、そんなこと出来る訳ないもんね。

さて。罪を償う為に蟻たちが提案したのが、一つの命につき百の善意を行う、という方法だった。

ようするに虫を一匹殺したら100回良いことをしなさい ってこと。

どんな小さな事でも良いから他人の役に立って、罪を浄化する……これが結構大変だった。

100回の親切に関してはそんなに苦にはならないものの、問題は俺の罪が一向に減らない事 いや、むしろ増えてってるかもしれない事だ。

確かに昔のように好奇心だけで命を粗末にすることはなくなった。

……けど、考えてみてほしい。

真夏の帝王ブラックG様が出たとき、人は見ぬふりを出来るだろうか？

モスキートの襲撃にあつたときに、人は甘んじて血を吸われ続けるだろうか？

答えは否。

こうして俺は今日も、蟻と会話する生活を続けているのだった。

ああ、人間とはなんと罪深い生き物だろう……！！

と、まあ前置きが長くなったが。

呪いとはいえこの生活になれてしまった今、アリたちとの交流は結構楽しかったりもする。

比較的よく行く公園なんかでは、セイジさんみたいな顔馴染み……もとい声馴染みも出来たりする訳で。

知り合いの蟻たちと雑談しつつ過ごす日々も悪くない。

「しかし、一人で公園なんて寂しい人生だなあー」

「まあマサミチさんってモテナさそうなタイプですからね」

「なんとなく貧乏くさそうってゆーか」

「コッペパンみたいだねー！」

「……」(笑)「……」

「うるせえよ！」

……蟻に子馬鹿にされることも多いけど。

「フーかコッペパンみたいってなんだ！？意味がわかんないから！」

「ところでマサミチ君、なんか食べ物持ってない？」

ひとしきり人をネタに笑った後、一人の蟻が声を掛けてくる。

「なんだ、こぶ平。いたのか」

「もうー、こぶ平って呼ばないで下さいよー！シュトラウスですつて！」

なんか立派な名前を名乗ってるが、どう聞いても林家こぶ平声です。いじられ様もこぶ平キャラだったりするから、いつもコイツの名前は覚えられないのだ。

「何？今日は食べ物不作なの？」

「ていうか、今日この公園で虫駆除作業やってましてね。結構危なっかしいんですよ」

やれやれ、虫の世界も色々大変だなあ。

カバンを漁ってみたら、カロリーメイトが出てきたので、それを差し入れることに。

それを見てセイジさんが飛び上がった（気がした）。

「おお！まさみっちゃん太っ腹だねえ！ポイント（善意）2倍にオマケしちゃうよ！」

「アンタは近所のドラッグストアかつーの」

細かく砕いたカロリーメイトを地面に置くと、蟻たちはお礼を言いながら巣に運んでいく。

「みんなー、マサミチ様からの施しだぞー！」

「マサミチさまバンザイ」

喜んで頂けるのは嬉しいが、お前らさっきはコッペパン呼ばわりしてたじゃん。

小さな虫たちも必死で生きている。

ただ生きる世界が違うだけで、こうして意思の疎通さえ出来れば友

達にだってなりうるのだ。

「いやあ、生きてるって素晴らしいなあ」

せつせと食料を運ぶアリたちの姿を見て、俺はしみじみとつぶやいた。

「っと、肩に羽虫が」

プチッ。

「……あ。」

本城雅道 18 歳、罪の浄化への道は まだまだ遠い。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5586a/>

これってアリですか？

2010年10月21日11時16分発行